雫石町あねっこバスの現状と課題

岩手県立大学　学生会員　○上路　幸奈
岩手県立大学　フェロー会員　元田　良孝
岩手県立大学　正会員　宇佐美誠史

1．はじめに

平成 14 年 2 月の道路運送法の改正により、バス事業者は赤字路線から撤退することが原則的に自由となり、競って地方の赤字路線から撤退した。そのため、撤退後住民の足となるバス交通を自治体が運営している例が全国各地でみられる。岩手県雫石町では平成 16 年から「あねっこバス」という名称でデマンド方式のバスを運行している。

本研究では運行開始から現在まで 10 年間の軌跡をたどり現在の評価と、過去からどうニーズが変化しているかを明らかにし今後の改善点を考察する。それとととともに、運行開始後に利用者へ与えた健康の改善等良い影響は現在も継続しているか、また、今後地域の高齢化が進む中で、デマンドバスの存在が、高齢ドライバーのモードシフトに影響を与える可能性について考察する。

2．あねっこバス導入の経緯

岩手県雫石町では、平成 15 年までは民間バス会社に赤字補填しながら、町内で起終点を完結する 7 路線にバスを走らせていた。しかしバス会社が撤退の意向を示し、赤字補填の請求額が増えたため、雫石町では廃止された路線バスの代わりに町でバスを運営する道を選んだ。町内のタクシー会社と NPO に運行とサービスを委託し、平成 16 年 4 月から「あねっこバス」という名称でデマンド方式のバスを運行している。デマンドバスではあるが、商業用の配車システムを使わないため安価である。町の NPO に運営を委託することでローコスト、ローテクのデマンドバスを運行し、路線バス業者が運行していた時よりも利用客が増えた。

3．あねっこバスの運行システムについて

あねっこバスの運行は平成 16 年 4 月から 2 か月間の試運転期間を経て、本格的な運行を開始し、土日の運行開始や停留所の新設等を行いながら平成 25 年現在まで運行が続けられてきている。運営機関は NPO、町内タクシー会社、役場の 3 つの機関である。役場は NPO に運営委託契約と予算の補助を行い、運営業務は NPO 法人が、実際の運行は町内タクシー会社が行う。あねっこバスの運行形態はデマンド形式のフレキシブルバスであり、路線の起終点、運行ダイヤ、バス停はあらかじめ決められているが、各路線に迂回ルートを設けており要請があった場合のみ通過する方法を用いている。路線図は図 1 に示す通りである。町中心部の雫石駅を起点として放射状に 6 路線を設定し、停留所から停留所までのサービス(停留所数のべ 200 箇所)を行い、路線ごとにダイヤを設定している。

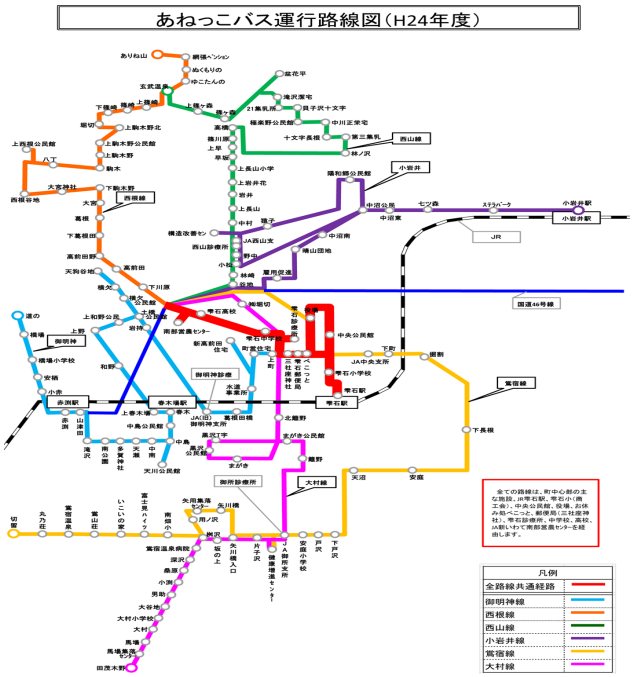

図 1　あねっこバス路線図

キーワード：デマンドバス
連絡先　〒020-0193 岩手県滝沢村巣子 152-52　g041i047@s.iwate-pu.ac.jp

４．先行研究

山口ら(2006)[1]は、「冬季においては、夏期には自転車やバイクによる移動をしていた高齢者が、危険回避のためにバスに乗り換えるという傾向も見られた。」と述べている。また、元田ら(2006)[2]は、「あねっこバスが運行されてから送迎の回数が減少し、健康面が改善した者が増加している。」と述べている。以上の論文によって、あねっこバスが住民に良い影響をもたらしたことが明らかにされている。しかしながら、現在も継続して同様の傾向がみられるかは明らかになっていない。また、高齢者が特に冬季において危険回避のためにバスに乗り換えるという傾向が、自動車運転者にも見られる可能性があるのかは、明らかになっていない。

５．町の人口と利用者数の動向

運行が開始された平成 16 年から現在の平成 25 年までに、町の総人口は 19,501 人から 17,964 人へ減少した [3]が、高齢化率は 25.8%(平成 17 年)から 28.9%(平成 22 年)(国勢調査)へ増加している [4]ため、今後においてもさらに人口の減少や高齢者の増加が続くと考えられる。また、町の 65 歳以上の運転免許保有者の割合は、平成 24 年 12 月末現在で 2559 人であり [5]、高齢者のうち約半数が免許を保有していると想定される。

あねっこバスの利用者は平成 17 年に土日の運行が開始されたこともあり平成 19 年までは増加傾向であったが、その後は減少傾向にある [6]。この原因は利用者の自然減であると考えられている。ただし、平成 23 年度に関しては震災によるガソリン不足などによって増加した。（図２）

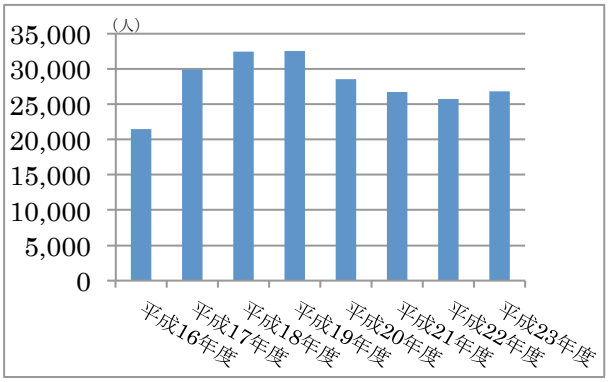

図２　利用者数の推移

６．おわりに

あねっこバスは平成 16 年の運行開始から、現在までに土日運行の開始や、停留所の新設は行われてきたが、基本的なシステムはほとんど変わらず運行を続けてきている。また、町の人口は減り続けているものの、主な利用者である高齢者の人口は増加しているため、あねっこバスの利用者数が増える可能性もあると考えられるが、実際の利用者は減少傾向にある。この原因は何なのか、過去と現在とを比較しどのようにニーズが変化しているかという点をこれから調査によって明らかにする。また、平成 18 年の調査では、高齢者が冬季の運転において危険回避のためにあねっこバスへ移動手段を転換するといった傾向が見られたが、現在もそのような傾向は継続しているのか、今後住民のニーズを反映したデマンドバスの存在が高齢者の無理な運転を減らすことへつながる可能性についても考察していきたい。

参考文献

1)山口善英・元田良孝・宇佐美誠史・古閑潤「デマンドバスは IT か。雫石あねっこバスの事例研究」第 33 回土木計画学研究 ・講演集,CD-ROM、2006 年 6 月

2)元田良孝・宇佐美誠史・古閑潤「送迎者、非送迎者間のストレスに関する調査」,2006 第 61 回土木学会年次学術講演会講演概要集 CD-ROM、2006 年 9 月

3)雫石町「人口・世帯」(平成 25 年 4 月 2 日確認) http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/modules/etc/index.php/content0005.html

4)雫石町「データブック 2012」p10 http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/modules/etc/index.php/content0120.html

5)岩手県警察「岩手の免許人口」p10 http://www.pref.iwate.jp/~hp0802/oshirase/menkyo/jinkou/iwatemenkyojinkou.pdf

6)雫石町「あねっこバスの運行状況」(平成 25 年 4 月 2 日確認) http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/modules/contents/index.php/content0607.html